1．科目名（単位数）	教育課程特論　（2 単位）	池袋・名古屋	3．科目番号	EDMP5234 EDMP5319
2．授業担当教員	鈴木　路子			
4．授業形態	講義		5．開講学期	秋期
6．履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし			
7．講義概要	学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるのか。この「何を」の教育内容を、子どもの必要と社会の必要とに基づいて検討し、構造化し、評価するのが学校カリキュラム研究の基本的課題である。子ども達が心身ともに健全に豊かに発達することを保障するカリキュラム編成の問題は、学校の教職員が各学問分野の研究者、教育行政の担当者、地域の父母・住民等の協力を得ながら、様々な角度から研究し、周知を集めて改革・改善に取り組まなくてはならない一大事業でもある。こうした視点に立って、本講では、学校カリキュラム研究の理論と方法を扱った基本文献を講読し、さらにこれらと関連したカリキュラムの実践事例の資料等も検討しながら、カリキュラムについて実証的に研究する方法の基礎を理解する。ここでは、改訂の学習指導要領（平成 20 年）で、「生きる力」を育むという理念が、社会においても子ども達に必要となる力であるとして、これからの日本の教育のあり方を決める鍵になるとの考え方が示されたことに注目する。その上で、現在どのようなカリキュラムが学校現場で実践されているのか、その現状を具体的に把握し今日的課題を明らかにする。1996 年の中央教育審議会答申で提示された学校・家庭・地域社会の連携による教育の充実に注目する。さらに、平成 29・30 年の改訂による社会に開かれた教育課程、「カリキュラム・マネイジメント」の実現、学習指導要領改訂の考え方の変遷を学び、履修院生の自国のカリキュラムを自主学習し、国際比較を行うと共にこれからの先の人類の生活生存にとっての生きる力を地球レベルで考え、開発する。			
8．学習目標	1．学校カリキュラム研究の理論と方法を扱った基本文献を講読する。 2．文献資料の要点を読解し、最近の改革動向をも含め学校カリキュラム研究の基本的知見を整理する。 3．学校カリキュラムについて実証的に研究する方法の基礎を理解する。 4．「総合的な学習の時間」の実践例を分析し、「総合的な学習の時間」の効果的なカリキュラムを提示。 5．カリキュラムの概念とその系譜を理解する。 6．ESD、SDGｓについて、理解し、現在の教育課程が、どのように寄与しているかを検討する。			
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	①わが国の学校カリキュラムを支える思想がどのように変遷しどのように展開されたか、その今日的意義と課題は何かについて述べよ。 ②カリキュラム編成の規定要因とそれらが教師の教育活動に与える影響について述べよ。 ③総合的な学習の時間の意義と課題について述べよ。			
10．教科書・参考書・教材	【教科書】 特に教科書を指定しないが、授業時に資料を配布する。 【参考文献】 山口満編著『第二版カリキュラム研究』学文社、2005 Becker,H.S.et al.(1961) Boys in White:Student culture in medical school,Univ. of Chicago Press. Filer,A.(2000)Assessment:Social Practice and Social Product,Routledge Falmer. 田中統治編「カリキュラム評価の考え方・進め方」教育開発研究所 安彦忠彦編「新版カリキュラム研究入門」勁草書房			
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 各種カリキュラム開発理論を各自の研究課題として理解することが出来る。 カリキュラム開発の目的・内容方法・評価について、学習者の発達段階の応じた系統性・順次生を理解する。 ○評定の方法 教育目的・目標、方法、結果の評価に関する時代変遷を認識し、現在に至っているかを対話の中からその変容を把握できる。 各自の研究目的方法内容をカリキュラム開発研究と関連しているかを考え、展開することが出来る。			
12．受講生へのメッセージ	新しい学習指導要領の掲げる理念である「知識・技能を活用する能力」「学習意欲や学習習慣」「生き力」などを子どもの身につけさせることのできる高い専門性と力量を持った教師・研究者になるためには、教育課程について法令、歴史、理論、実践などの観点から多角的に研究することが不可欠である。院生一人ひとりの学習に沿いながら教師はそのコーディネーターの役割をつとめるので準備と積極性が望まれる。			
13．オフィスアワー	オフィスアワーの時間は掲示する。			

14　学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題、学習する上でのポイント等】

1～3.テーマ	カリキュラム開発の理論と方法

【学習の目標】カリキュラムの概念とその開発理論について研究を深める。
【学習の内容】 カリキュラムの概念、カリキュラム開発の今日的な課題、
カリキュラム開発の方法（SBCD によるカリキュラム開発法のとらえ方）
カリキュラム開発の三つのモデル、カリキュラムの効果研究の課題
【キーワード】カリキュラムの概念、カリキュラム開発、カリキュラム開発の方法、カリキュラムの効果
【学習の課題】カリキュラムの基本的な考え方や基礎理論について文献を講読し研究を深める。わが国の学習指導要領の変遷と、それに伴って教育課程がどのように改革されたか、総合的な学習の時間がどのように構想され展開されたか、さらにはカリキュラム開発の方法について研究し、その今日的課題について考察する。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

4～6.テーマ	カリキュラム開発の歴史的成果

【学習の目標】教育課程を支える思想について研究を深める。教育課程の異なる重要な要素として、子どもの成長や生活を重視する立場（経験主義）と科学・学問の理論体系を重視する立場（系統主義）との二つが取り上げられる。こうした思想はどのような時代背景のもとで提唱され、批判されたのか、また今日的な意義と課題は何かを考察する。
【学習の内容】コア・カリキュラム、経験主義カリキュラム、系統主義カリキュラム児童中心カリキュラム、
学問中心カリキュラム、カリキュラム類型、2008 年改訂の教育課程観　総合的な学習の時間の創設と課題
【キーワード】経験主義、系統主義、コア・カリキュラム、カリキュラム類型、総合的な学習の時間、生きる力
【学習の課題】カリキュラムには様々な考え方がある。子どもの何をのばしたいか、子どもに何を伝えたいかによっても違ってくるし、何を重視するかによってカリキュラムの中身も異なってくる。諸外国と対比しつつ、日本においてはカリキュラム開発を支える思想がどのように変遷し、どのように展開されたかその問題点は何かについて研究を深め考察する。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

7～9.テーマ	カリキュラム評価

【学習の目標】日本において、カリキュラム研究の不可欠の要素として、カリキュラム評価の重要性が認識されるようになったのは、昭和 20 年代に当時の文部省が新教育、経験主義教育を推進し、学校における教育課程編成を強調するとともに、教育課程評価をしっかりするようにとして出された 1951（昭和 26）年学習指導要領からである。その後、1958（昭和 33）年より、学習指導要領が「告示」されるようになって、教育実践に対する拘束性を強めていくなかで、その文書から「教育課程の評価」の項目が削除された。しかし地方分権化の時代を迎えて、「学校を基礎にしたカリキュラム開発」の必要性が強調されるようになってきている。あらためて、「カリキュラム評価」の今日的意義を研究し、今後の新しいカリキュラム評価の方向を考察する。
【学習の内容】 カリキュラム評価とは何か、カリキュラム評価とその対象、意義、目的、視点
学力をどう捉えるか、見えやすい学力・見えにくい学力、今後のカリキュラム評価の課題
【キーワード】カリキュラム評価、対象、目的、意義、課題、学力
【学習の課題】 教育目標の達成がなされたかどうかをみるためには、それがどのように子どもの中に実現されたかが重要なポイントになる。そこには、学力をどう捉えるか、その評価はどうなされるかの問題がある。戦後の日本の学力観の変遷、ならびに諸外国と日本のカリキュラム評価の実態を整理・分析し、これからの望ましいカリキュラム評価のあり方を考察する。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

10～12.テーマ	特色あるカリキュラム開発の現代的試み

【学習の目標】2002 年からの総合的な学習の時間の導入に先立って総合的な学習に対する考察が多く行われ、賛否や教育方法が論議されてきた。その多くが教師サイドからの理念や学校における実践事例のケーススタディが中心であった。本講では、「総合的な学習の時間」がどのような経緯で創設され、どのような改訂が行われたのか、その位置づけとねらいは何か、諸外国（特にカナダやドイツ）と対比しながら研究を深める。さらに、各学校で取り組まれている実践事例を収集し検討をくわえながら、その創意工夫や成果を明らかにする。その上でカリキュラムについて実証的に研究する基礎を身につける。
【学習の内容】 「総合的な学習の時間」の位置付けとねらい、総合的学習による学校改革の課題
研究開発学校のカリキュラム開発事例とその評価、特別支援学校のカリキュラム開発事例とその評価
カリキュラム評価を活用した実践事例
【キーワード】総合学習、「生きる力」、研究開発学校・特別支援学校のカリキュラム開発事例、カリキュラム改善事例
【学習の課題】 「総合的な学習の時間」のように学校が創意工夫を凝らして開発している実践事例を収集し検討する。成功した事例だけでなく失敗した事例についても考察して、カリキュラム開発を継続させる要因（学習環境も含めて）を明らかにする。これらの活動を通してカリキュラム調査研究の観点と手法の基礎を習得する。
【参考文献】　上記 10 で挙げた教科書・参考書

13～15.テーマ	福祉・保健と連携したカリキュラム開発の試み

【学習の目標】「総合的な学習の時間」は、1998（平成 10）年学習指導要領で新設されたが、その中で、今後の社会を生きる子どもに求められる資質や能力を「生きる力」と名付け、これをバランスよく育成することがこれからの教育に求められるとし、この「生きる力」を育成する柱の一つとして「総合的な学習の時間」が構想された。今では「総合的な学習の時間」は、カリキュラム上の位置づけが一層明確となり、学校教育における重要性がより一層高まっている。
【学習の内容】「総合的な学習の時間」の創設とその内容、総合学習と総合的な学習
2008（平成 20）年学習指導要領での「総合的な学習の時間」の改訂
学習指導要領上の「総合的な学習の時間」の特徴、日本及び諸外国の実践例
【キーワード】総合的な学習の時間、生きる力、学習指導要領
【学習の課題】わが国のみならず諸外国においても総合的な学習は、比較的新しい試みで、従来の教科教育、さらには学校教育全体の改革と結びついて構想されたもので、カリキュラム改革の重要な一つの焦点となっている。しかし、わが国では当初から教育現場において多くの誤解や混乱を招き、専ら特定の教科の知識・技能の修得を図るために費やされたり、運動会の準備などと混同された実践が行われた結果、当初の趣旨が達成されないばかりか、総合的な学習の時間に対する批判が高まったこともあった。こうした経緯をふまえ、カリキュラムにおける「総合的な学習の時間」の位置づけを明確にし、その意義について考察する。また、多くの実践例を分析し、「生きる力」を育むための「総合的な学習の時間」の効果的なカリキュラムを示唆する。
【参考文献】 Lynne E.Yirginia Hayes(2008).Transforming Health Promotion Practice Concepts,lssues,and Applications（高野順子・北山秋雄監訳「ヘルスプロモーション実践の変革」日本看護協会出版会）
R.P.Liberman,W.J.DeRisi,K.T.Mueser(1992)Social Skills Training for Psychiatric Patients
(池渕恵美監訳『精神障害者の生活技能ガイドブック』医学書院)
奥野英子・関口惠美他著『自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル』中央法規